

## 〔奨励部門〕

1. 氏名 鈴木 結生 (小説家)
2. 年齢 24歳 ※R7.10.15現在
3. 住所 福岡市



©朝日新聞出版写真映像部  
上田 泰世

### 【経歴及び選考理由】

平成13年、福岡市生まれ。福島県郡山市で育つ。

福岡県立修猷館高等学校卒業。

西南学院大学外国語学部卒業、西南学院大学大学院外国語学研究科（英文学専攻）在学中。

西南学院大学在学中の令和6年、小説「人にはどれほどの本がいるか」で第10回林芙美子文学賞佳作を受けてデビューする。

同大学大学院在学中の令和7年、小説『ゲートはすべてを言った』で第172回芥川龍之介賞受賞。21世紀生まれとして初の芥川賞受賞者として話題を呼ぶ。

このように氏は、英文学の研究をするかたわら活発な創作活動を行い、本県の文学分野の文化の振興に貢献している。

### 【小説】

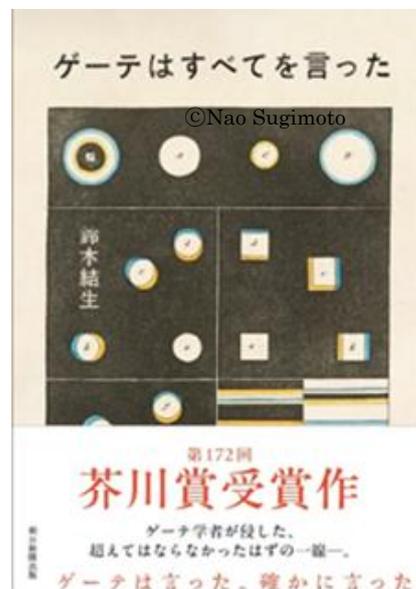
- 「人にはどれほどの本がいるか」（令和6年）  
（『小説トリッパー』2024年春季号）
- 『ゲートはすべてを言った』（令和7年）
- 『携帯遺産』（令和7年）
- 「世界文学物尽」（令和7年）  
（『小説トリッパー』2025年夏季号）
- 「エル・ニモ」（令和7年）  
（『文學界』2025年9月号）

### 【エッセイ】

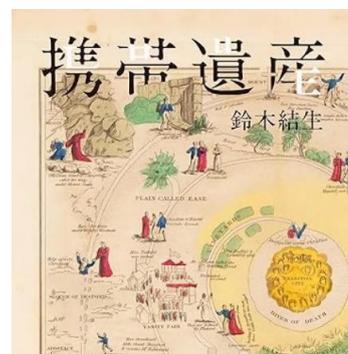
- 「私にはどれほどの本がいるか」（令和6年）  
（『文學界』2024年7月号）
- 「すばらしいスモール・ワールド」（令和6年）  
（『群像』2024年12月号）
- 「三人のO・K」（令和7年）  
（『朝日新聞』2025年1月24日朝刊）
- 「信仰と創作」（令和7年）  
（『文學界』2025年3月号）
- 「私らが文学をする理由」  
（『新潮』2025年6月号）など

### 【受賞歴】

- 第10回林芙美子文学賞佳作（令和6年）「人にはどれほどの本がいるか」
- 第172回芥川龍之介賞（令和7年）「ゲートはすべてを言った」
- 福岡市文化賞（令和7年）
- 第35回みんゆう県民賞（令和7年）



「ゲートはすべてを言った」  
（令和7年）



「携帯遺産」  
（令和7年）

（参考）奨励部門：個性的・創造的な創作活動を行い、かつ、将来一層の活躍が期待されるもの